

請負契約締結後は、伐出事業全体を統括する山頭と現場に派遣する店員を決め、事業上必要とする作業員の募集を行い、道付、小屋掛、物資の駄送等の入山準備に取りかかるのである。

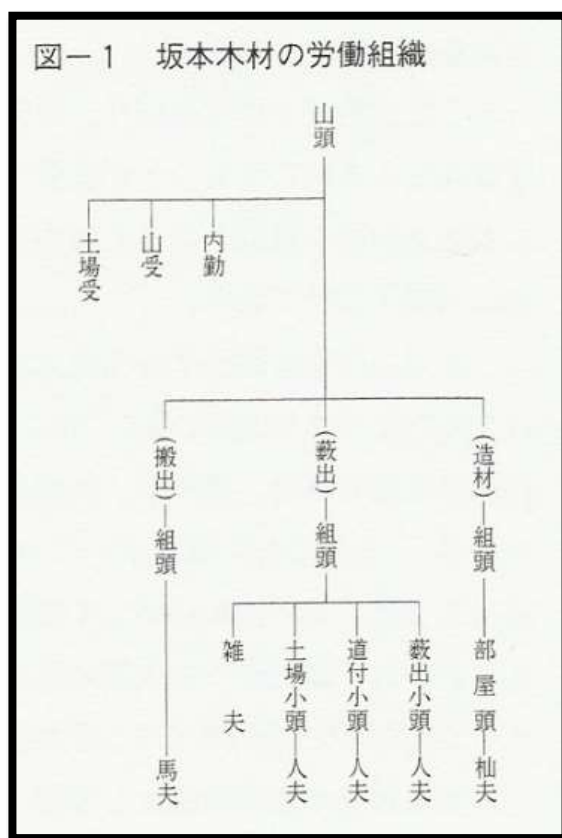
坂本造材部の場合は杣夫は南部衆、人夫は津軽衆が多く、馬夫は道内衆が殆どであった。

伐採作業は伐区をいくつかの採面に分け、杣夫に採面を配分し、杣夫は鋸や斧を持って立木を伐倒し、枝払いをして玉切り、刃広（ハビロ）で剥皮をして造材を終える。

次いで藪出し（ヤブダシ）は4～5人が1組となって主として鳶、土佐鶴等を用いて小運搬作業に便利な地点まで集材をするのであるが地形によっては修羅出しをした。

その後、流送地点の土場まで運ぶのが小運搬であり、沙流事業地では、冬期玉曳きによる小運搬が一般的であった。

これらの作業を経て川土場に巻立てされた材は、融雪期を待って土入れされたが、いわゆる鉄砲堰を築いて、「堤流」されることが多かった。



河川別流送積

単位:1,000石

河川名	流送期間	流送石数	年間流送量	
			少ない年	多い年
沙流川	明治43～昭和25年	2,961.6	18.0	173.3
美里別川	大正4～昭和25年	2,675.5	52.0	140.2
利別川	大正4～昭和9年	1,176.4	9.0	199.0
クネベツ川	大正4～大正9年	403.6	27.0	57.0
音更川	大正4～昭和16年	1,223.5	6.3	134.6
夕張川	大正5～昭和8年	429.7	26.0	51.1
石狩川	大正3～大正11年	529.8	24.0	143.2

※沙流川・美里別川の流送は何れも昭和29年まで継続された

堤流によって水流の多い本川まで運ばれた材は、「散流」によって自然の水勢で本網羽まで流れ着き陸揚げ(水切り)をされることになるが、このためには流路全般にわたり、護岸、水制、決潰防備、橋梁防備、川中の障害物除去等を行うとともに網羽を築設し、さらに陸揚施設、巻立土場等を整備せねばならなかった。

とくに散流では木鼻作り、中狩り、木尻狩りをこまめにする必要があるで、それらの努力の積み重ねがあって始めて材は網羽に到達するのである。

これらの作業に従事する流送人夫の募集は人夫の頭、つまり庄屋を通じておこなった。

沙流事業地の場合、越中衆、紀州衆、津軽衆が多く、それぞれに庄屋がいたのである。

流送人夫は、その技能に応じて船夫と平人夫に分かれ、船夫の中の人望のある者は、7～10人の平人夫を統制する小頭となった。

流送作業別所要人員・馬匹		
事業地	沙流事業地	
延人員	所要人員	所要馬匹
土入	2,286人	42頭
堤流	3,659人	—
散流	9,117人	428頭
計	15,062人	470頭
陸揚材積	108,050	

坂本造材部の現場組織としては、流送事業全体を指揮する総監督と帳場がおかれ、通常総監督の下に流送過程を見廻りする者、土場責任者、内勤帳場等がはいちされた。

流送夫は身軽な者が多く、散流の丸太の上をバランスを取りながら飛び移り、独特の流送鳶を自在に操る姿は、まさに瞠目に値するものであった。

この長い歴史を刻んだ流送事業も橋梁個所の増加、電源開発の増大等によって昭和29年を以て終了した。しかし、上流の支流部分(いわゆる小沢流送)のみの流送となったが、昭和30年には全ての個所でその姿を消したのである。

「坂本木材100年のあゆみ」に当時の流送の記録を記録した写真がありましたので、その写真を転載させていただきます。

写真は白黒写真ですが、当時の仕事の手順が分かりやすく編集されており、貴重な記録写真となっています。

目で見る往時の伐出・流送

〈飯 場〉



雪に埋もれる飯場の全景



飯場ではドンコロが燃やされ
昼夜を問わず火の気は絶えない

〈伐 倒〉



まず受口を切り込む



受口の反対側から鋸を入れていく



伐根は低く、又、伐倒後の
仕事の都合をよく考えて…
仙夫の腕の見せどころ
でもある



伐倒の瞬間、轟音山間に訝し
飛雷その視界を遮る。まさに壮観。

〈枝 払 い〉



伐倒後は大鋸で枝を払う

〈玉 切 り〉



定尺に切断。細い部分は反割ぎ後に切断する

〈皮 剥 き〉



刃広で荒皮を剥く。これには八方・六方・四方割ぎがある

〈節 打 ち〉



大節のあるものは節打ちも（夏山）

〈中出し〉



登山者自ら人力バゲで中出しする切出し作業



急斜面はブレーキを換り、大荷物も見事に曳きおろす

〈大道付〉



馬搬用の大道付作業、除雪片崩・切削・構築けと
その地形に応じ作設していく



エゾマツ

〈玉 曳〉



玉横に丸太の前部を乗せ
後方は曳きづつたままで



玉横への積荷づくり



馬道に適度の勾配をつけ
効率アップを図る



平地地では又字通り馬力アップ



3頭運なって山土場へ急ぐ

〈パチパチ搬出〉



パチを2台連結してのパチパチ搬出・大量運搬が可能



大量運搬に耐え得るよう馬搬出道は敷水し凍らせ補強する

〈玉パチ搬出〉



前は玉積、後にパチという組合わせで玉パチという
急峻地・平坦地にマッチした搬出方法である

〈山土場巻立〉



搬出された丸太は舟の運送まで巻立し、土入れ作業に備える

〈土入れ〉



菅笠を被った流送夫達が次々と丸太を堰内に入れる土入れ作業

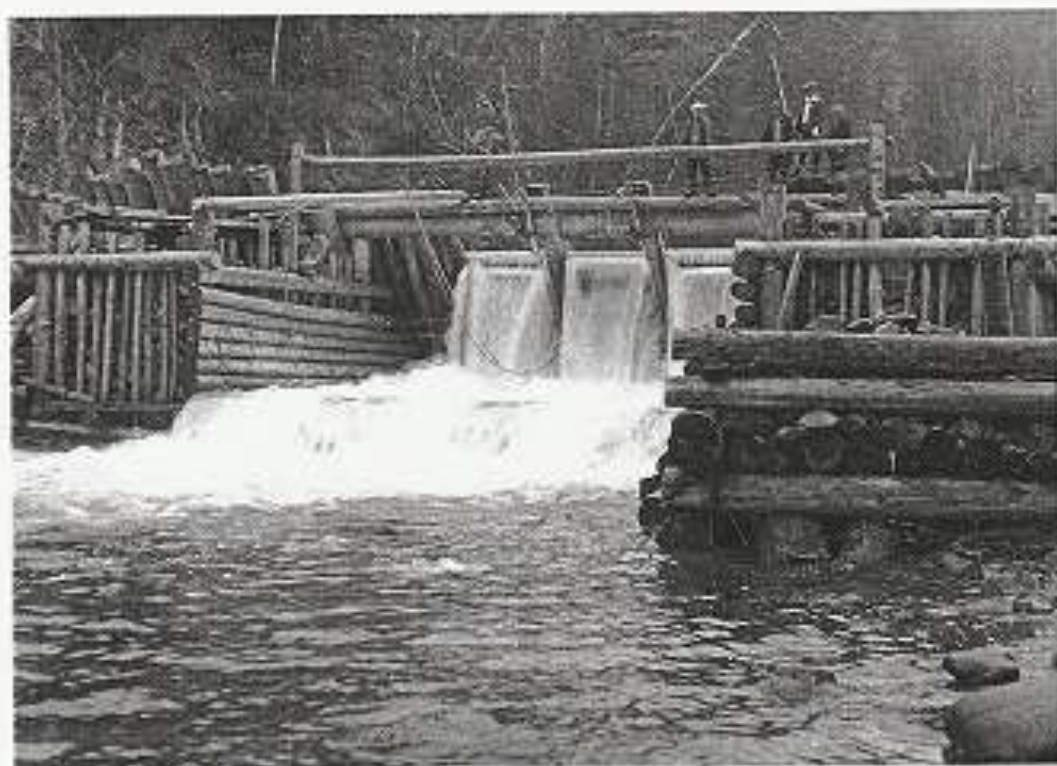


菅笠・副長・雨合羽、土入れ丸太を堰内で操る流送夫

〈受 堤〉



上流堰から流下材を一時受止める受堤



受堤は大坊柱を二本にし、戸前も広く



濁水を一気に開放する



開放5秒後の光景。丸太を飲み込んで一気に蒸下する
これぞまさしく、ザ・流送

〈散 流〉



泡立つ激流に横まれつつ流下する丸太



釣棒一本に身を託し
丸太を自在に操る流送夫

〈干上り材〉



逕流では一時的増水で多くの丸太は流下するも中には取り残される丸太もある。これを干上り材という。



殆ど水はなく上流の堤で貯水中に干上り材を川中央へと出し、次にくる逕水で狩り下げる。

〈木詰り〉



僅かな障害物があっても丸太は詰ることもある。これを木詰りという。



堤水で激下する丸太と、木詰り防止作業中の河送夫

〈中狩り〉



干上り材を水へ戻す。これを中狩りという。



川舟に乗っての中狩り作業



流送夫達が一番難やいで見える
ベテランの技、丸太乗り。

〈中途外し〉



障害物に掛かった丸太を外す。中途外しの作業
外した瞬間飛鳥の如く流れ出す丸太を飛越え
舟へと戻す。これも又ベテランの技。